

# 会報 たま

公益社団法人 日本山岳会  
東京多摩支部  
2024年11月10日発行  
第58号

## <安全対策委員会・奥多摩BC 運営委員会>

### 「山の日全国大会協賛イベント」として安全登山チラシ配布

文・写真 石井秀典

8月11日「山の日」にJR奥多摩駅前広場にて恒例の「山の日周知と安全登山チラシ配布」活動を行った。今年は「山の日全国大会」が東京都（八王子市）で開催されることから、本部山の日事業委員会から東京多摩支部のチラシ配布活動を「山の日全国大会協賛イベント」として実施してほしいと要請があり、事業委員会の協力を得て、例年に増しての体制で山の日キャンペーンを実施することになった。

当日は6時半から活動を開始した。山の日横断幕を飾り、のぼり旗を立てて賑やかに演出し、駅舎の出口、バス乗り場などでチラシを配布した。また、例年と同様に青梅警察署山岳救助隊と奥多摩ビジターセンター職員が参加し、さらに山梨県警（上野原警察署）と地元ケーブルテレビ撮影隊も加わり、キャンペーンは大変な賑わいになった。

青空が広がる晴天で、奥多摩駅には電車が到着するたびに大勢の登山者、キャンパー、観光客が下車してきて、気が抜けない忙しさだった。チラシにアミノバイタル（スポンサー提供）を添付したせいか、喜んで受け取ってもらえた。チラシを見て、「今日は『山の日』なんだ」の声もあり、キャンペーンの必要性を感じた。9時半前の電車到着で全てのチラシ配布が完了した。奥多摩駅前広場が約800部、ビジターセンターと奥多摩



奥多摩駅前にてチラシを配付



BC等で約200部と、例年の倍以上の部数が配布されて、大盛況だった。参加者は、山の日事業委員4名、支部安全対策委員2名、奥多摩BC運営委員8名、一般支部員4名の18名（次頁参照）だった。



## 目次

1. 山の日全国大会協賛チラシ配布	6. 山行定例7月 霧ヶ峰（ミニレポ伊藤新道）	14. 安全対策 ジローの規約変更
2. 奥多摩BC 松田氏講演会	7. 山行定例7月 苗場山	14. 奥多摩BC JAC 会報と「山岳」製本
2. 奥多摩BC 夏祭り生ビールと花火会	8. 山行定例9月 越後駒ヶ岳	15. ミニレポ表銀座 / 白峰南嶺 / 白峰三山
3. 山岳古道 古甲州道 / 小菅～大菩薩峠	9. 登山教室7月八子ヶ峰（ミニレポ北鎌尾根）	15. エッセー「淵沢上空にUFO?」(夏原)
3. 財務 金時山懇親山行	10. 登山教室8月大菩薩嶺	16. 多摩支部の人々 小笠原毅氏
4. 登山教室PT 自主トレーニング	11. 登山教室9月上高地・岳沢	17. インフォメーション
4. 山行 リーダー講習会	12. 3期中級登山教室7月 小坂志川	18-19. 支部連絡会議、議事録&表
5. 山行平日7月 大平山	12. 3期中級登山教室8月 シダクラ沢	20. カレンダー、会報広報委員会通知
5. 山行平日9月 横根山	13. 3期中級登山教室9月 鳳凰三山	20. 講演会案内、広告、編集後記

< 奥多摩 BC、南氷川自治会共催 >

松田会員の「地震と火山」講演会

西村 章



松田氏

和モダンなギャラリーで熱気に満ちた講演会

7月6日(土)午後1時30分より、東京多摩支部地域交流事業の一環として、奥多摩町南氷川自治会と奥多摩BC運営委員会の共催で、今回で2回目となる講演会が開催された。講師は松田慎一郎氏で、演題は「地震と火山」。BCに隣接する木村委員の「あとろえ和泉」(ご自宅ギャラリー)にて、町長、自治会長はじめ南氷川自治会から17名、消防署員2名、支部員(岡、高田、小口)、BC運営委員8名の計31名が参加した。

講演会は、震度・マグニチュードの解説、地震や津波の特徴、プレートの沈み込みによる活火山の分布状態、巨大地震発生により火山噴火が誘発される等々、興味深い話題が続いた。また、いろいろなデータから東海地震が近づいており富士山噴火が誘発される可能性、さらに火山性ガスの漂う場所での心得など、改めて日常的に防災を意識する必要性を教えられた。一方、奥多摩地域には活断層が確認されていない、活火山も無く地盤が強固であるなど、地元の方々にとって安心材料となる話もあった。時には、松田さんお得意の脱線した話も興味深く、楽しく、笑いも誘われた。

会場には地震計の実物が展示され、そばで足踏みするとグラフの波形が揺れる様子も観察でき、皆興味深げに覗いたり、手にとったりしていた。会場からは「富士山が噴火した場合、火山灰は奥多摩にも降ってきますか?」「地震計と震度計はどう違うのですか?」といった活発な質問が相次ぎ、1時間半以上に及んだ講演会は終始熱気に包まれていた。

(写真/坂井啓子)

< 奥多摩BC運営委員会 >

夏祭り「生ビールを呑んで花火を観よう」開催される

中村敦子

8月10日は奥多摩町の夏祭りだ。街中に出店が並び、山車が巡行し、夜には花火が打ち上げられ、町が最も賑わう日だ。奥多摩BCを飾り付け、恒例行事「生ビールを呑んで花火を観よう」を実施した。懇親会に先立ち、昨年まで元気に参加していた金邦夫氏と、小野勝昭氏のご逝去を悼み黙祷。生ビールが配られて懇親会を開始した。翌日が「山の日」なので、日本山岳会が深く関わった山の日制定の経緯を、本部山の日事業委員会の成川隆顕氏からお話し頂いた。初参加の支部員や、山の日キャンペーン(奥多摩駅前チラシ配布)参加の山の日事業委員会の方がいるので、自己紹介をした。個性豊かで楽しい自己紹介に盛り上がった。また、奥多摩BCを利用するための「ちよこ休憩と隣接温泉の利用」、日本山岳会の歴史を知る「山岳」を製本して展示したことを紹介した。打ち上げ花火が始まり、BC裏庭で観賞。山々に花火の音が反響して迫力が増す。20時20分に終了し、12名が宿泊して、翌日の山の日キャンペーンに備えた。参加者は(山の日事業委員会4名)久保田、成川、清登、黒沼、(BC運営委員8名)中村(敦)、山内、富澤、石井、松田、小尾、坂井、小嶋、(支部員15名)石塚、岡、川合、片野、河野、高砂、高田、高橋(郁)、竹中、辻橋、広瀬、松尾、松本(賀)、皆川、吉田(博)だった。



翌日は「山の日」なので、日本山岳会が深く関わった山の日制定の経緯を、本部山の日事業委員会の成川隆顕氏からお話し頂いた。初参加の支部員や、山の日キャンペーン(奥多摩駅前チラシ配布)参加の山の日事業委員会の方がいるので、自己紹介をした。個性豊かで楽しい自己紹介に盛り上がった。また、奥多摩BCを利用するための「ちよこ休憩と隣接温泉の利用」、日本山岳会の歴史を知る「山岳」を製本して展示したことを紹介した。打ち上げ花火が始まり、BC裏庭で観賞。山々に花火の音が反響して迫力が増す。20時20分に終了し、12名が宿泊して、翌日の山の日キャンペーンに備えた。参加者は(山の日事業委員会4名)久保田、成川、清登、黒沼、(BC運営委員8名)中村(敦)、山内、富澤、石井、松田、小尾、坂井、小嶋、(支部員15名)石塚、岡、川合、片野、河野、高砂、高田、高橋(郁)、竹中、辻橋、広瀬、松尾、松本(賀)、皆川、吉田(博)だった。

(写真/松田慎一郎)

## &lt; 120周年記念山岳古道調査 PT &gt;

## 古甲州道の小菅から大菩薩峠周辺を調査

石塚嘉一

甲斐国と武蔵国を結んだ古甲州道は、檜原村数馬から風張峠を越えて小河内村に下り小菅村に入った。そして小菅村田元から牛の寝の尾根を登り大菩薩峠（現在の石丸峠）に出て上日川峠から萩原（裂石）に下った。

2023年5月に小菅村から大菩薩峠の古道調査を行った。田元バス停のそばから牛の寝尾根へ登り始める。原生林のような美しい森を楽しみ、高指山の尾根を巻く。大ダワからの緩やかな幅2メートルほどの道は、主に江戸時代まで、小菅の村人が馬、牛と、荷を積んだ車を引いて通ったことが偲ばれる。ほかに小菅村と塩山で聞き取りなどの予備調査、上日川峠―裂石、石丸峠―上日川峠など、計5回6日間の調査を行った。



大ダワにて休憩  
小菅村―大菩薩峠調査



大成（おおなり）様  
の石仏

小菅村には、小仏峠を越える甲州街道が取って代わるまで、賑わっていたことを示す多くの石仏が残っている。大成（おおなり）集落には石仏が多く、他所から集めたと思われる。中でも大成様は観音様として地元の方に祀られていたという。馬頭観音像、富士（山岳）供養塔などもあり、余沢には旅人から通行税を取ったという口留番所の跡を示す立て札が立っていた。

当時の大菩薩峠には頂上付近に荷置場があり、小菅村と萩原村から運んできた荷物を置き、交易したことが「甲斐国志」に記されている。武田信玄の息女松姫が高遠城から逃れるときに通ったという伝説も残るロマンのある道でもある。（写真 / 石塚嘉一）

## &lt; 財務委員会 &gt;

## 金時山で親睦ハイキング

太田雄三

9月8日（日）、秋の親睦ハイキングを実施した。財務委員会は会務だけではなく、皆で山も楽しむ委員会なのだ。金時山は箱根外輪山の最高峰で、山頂からの富士山の展望を目指して登山者が多い。坂田金時（金太郎）にまつわる伝承の多い山でもある。参加者は柏木・中村（敦）・畑中・加藤・榊原・太田の6人だった。

バスタ新宿からの直通バスの利用組と自動車利用の2組で金時神社入口に集合する。登山口から金時山を目指す。登山道脇にある公時神社の境内では神の使いと言われる立派な烏骨鶏が大きなトキの声を上げ、歩き回っていた。9月になっても暑い日が続くが高原の樹林帯の登山道は気持ちが良い。整備された登山道を進むと、真っ二つに割れた金時宿り石に到着。ここから本格的な登山が始まる。稜線に出ると階段状の登山道が続き、ようやく1212mの金時山山頂に到着。山頂は大勢のハイカーでにぎわっていた。残念ながら期待していた秀峰富士は雲に隠れて望めなかった。しかし、南に大涌谷～箱根外輪山の山並みが望め、芦ノ湖畔のゴルフ場の芝生が地球のアップリケのように見えた。小屋名物のなめこ汁で昼食をとる。天気予報は午後から雨になっていたので長居はできない。早々に下山開始する。往路を下り、公時神社分岐で二手に分かれ、自動車組は公時神社入口へ戻った。バス利用組は正面に明神ヶ岳を望みながら尾根を進み、矢倉沢峠から仙石原へ下り、湯の街の温泉で汗を流した。帰路のバスは東名高速の事故渋滞で大幅に遅延したが、無事に新宿に帰着した。（写真 / 太田雄三）



金時山山頂にて

## <登山教室 PT >

### 自主トレーニングでパワーアップ

村岡庸こ

登山教室 PT ではスタッフの力量向上のために自主トレーニングに力を入れている。まずは自分の行きたい山に行けるようになることを目標に、計画書の作成から実施までサポートしている。人を連れていくことを必須としているのは、人を連れていくことで責任が生じ、負荷が高まるからである。力量の向上とは、単に歩行技術を身につけることではない。現場の情報を収集したり、数日前から天候を注視したり、一緒に行くメンバーの個々の状況を把握すること、万が一の場合の準備をするなども重要だし、そして何よりも体力をつけることが大切だ。



滝子山山頂にて

今年度は5月の「扇山～百蔵山」(7名参加)に始まり、小金沢連嶺(3名)、7月「滝子山(寂悄尾根)」(9名)、9月「雲取山(三峰～鴨沢)」(6名)と続いている。小金沢連峰では上りより下りに時間がかかることや山行後半にペースダウンすることがわかった。滝子山では三点確保の復習と確認ができた。雲取山は雨だったが、皆元気に歩きとおした。順番に山行を企画し、リーダーを経験することで、経験値が積み重なるとともに、山行を担当したメンバーの士気が上がっているのを感じている。成果が出るには時間がかかると思うが、多くのメンバーが参加することを期待している。

## <山行委員会>

### リーダー講習(無雪期)を実施

佐藤 守



日和田山で  
懸垂下降

山行委員会は新しく委員になった会員を対象として、基礎的な登山の知識や技術を習得することを目的としてリーダー講習を実施している。9月に3回の講習会を行った。

9月7日(土) 日和田山(こども岩・女岩)にて岩登りの実習を行った。参加者は6名(L佐藤、内田、勝又、古谷、柳田、渡邊)で、7mmロープ、スリング、カラビナを用いた基礎講習をした。ロープワークは、よく使うロープの結び方、支点の設置、セルフビレーなどを行った。また、三点確保での岩場の登下降、懸垂下降を行った。さらに、事故発生時の対応として、自力救助の判断、事故者への接近、引き上げ、搬送方法、自力救助困難な場合の救助要請などの講習を行った。

9月14日(土) 石裂山にて、岩場、鎖場などの実践的な講習を行った。参加者9名(スタッフ:L佐藤、中原、西山、受講生:勝又、渡邊、古谷、今中、西村(章)、内田)で、荒れた登山道、増水している沢の徒渉、岩場・鎖場・長い梯子の登下降などを行っ



石裂山の  
沢沿いの  
道を慎重  
に歩く

た。時間の都合で周回はせず、奥の院までピストン。

9月21日(土) 水雲山(三ツ峠山支尾根)にて地図読みの実習を行った。参加者はスタッフ:L佐藤、清水(茂)、受講生:勝又、今中の4名。踏み跡の不明瞭な昔の参詣道を辿り三ツ峠山へ登頂し、バリエーションルートの歩行と地図読みを体験した。

以上、3回の講習の内容は盛沢山なので、今後も繰り返して練習してほしい。(写真/佐藤守)

# 山 行 報 告

<7月平日山行>

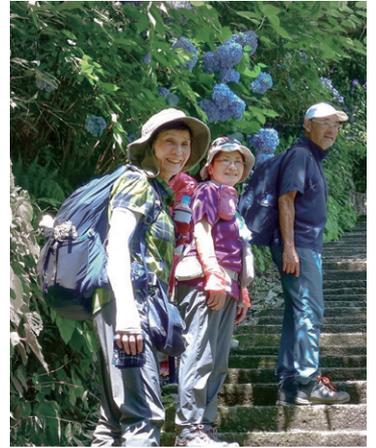
## 太平山 —古刹に咲く紫陽花と陸の松島—

【日 時】2024年7月4日(木) 【天候】晴れ

【参加者】5名/L鎌塚、SL高砂、太田、川島、中山

【行 程】8:40 大平下駅発→9:45～10:10 謙信平→10:50～11:05 太平山→11:20 ぐみの木峠→  
12:15～50 晃石山→13:40～45 清水寺→14:25～45 大中寺→15:30 大平下駅

【記録】気温が高くなることは覚悟していたが、梅雨の真最中に最高気温 35℃の予報になるとは…。熱中症対策のためコースを短縮することにした。さらにあじさい坂と謙信平で、連日イノシシが出没しているとの情報が。市の観光案内所によると、人に慣れていているようなので刺激しなければ大丈夫と思う、とのことで決行することにした。太平山神社の鳥居をくぐって山道に入り謙信平に到着。霞みがかかっていて遠望はなかった。参道の茶屋でかき氷で涼を取り、あじさいを眺めながら休憩し、ほっとする。太平山神社本殿ではお参りしたり、御朱印を頂いたり。奥宮を越え、その先の富士浅間神社の裏手が太平山の山頂だった。そこから少々アップダウンがあり、晃石山に到着。参加者が背負ってきてくださったノンアルコールビールを、名物の卵焼きと共に楽しくいただいた。木々の間から、男体山、女峰山、皇海山など日光の山々が見られた。そこから短縮コースを取る。急坂を真っ直ぐ清水寺の裏手に下り、大中寺へ。紫陽花の美しい参道を通り、寺の七不思議などを見て回った。酷暑だったが、全員体調を崩すこともなく、イノシシにも会わず無事下山した。(文・写真/鎌塚典子)



奥宮への階段にも紫陽花が

<9月平日山行>

## 横根山 —井戸湿原で小さい秋みつけた—

【日 時】2024年9月4日(水) 【天候】晴れ

【参加者】9名/L清水(茂)、SL鬼村、勝又、西村(章)、松本(賀)、太田、松川(信)、本村、菊川

【行 程】八王子駅=6:20(タクシー)=9:30～9:50 古峰ヶ原峠→10:50 三枚石→11:22 方塞山→  
12:15～40 前日光ハイランドロッジ→13:05 横根山→13:50 五段の滝→14:10 井戸湿原→  
14:50 象の鼻展望台→15:30 前日光ハイランドロッジ=19:10 八王子駅南口



タマガワ  
ホトトギス

【記 録】古峰ヶ原峠へ到着すると空が真っ青！日差しは強いが、風が心地よい。登山道は大雨で荒れていて、時々道を見失う。一ノ鳥居、二ノ鳥居を過ぎて、三枚石へ到着。大きな石が重なり、その下には金剛山瑞峯寺の奥の院があった。登山道はツツジの森が続く。広い尾根に出ると方塞山へ到着。緑一面の牧場が広がる。牧場沿いに歩いて、前日光ハイランドロッジで休憩。日光連山は雲の中だった。小さなアップダウンを繰り返して横根山へ登頂。井戸湿原へ入ると木道となり、鹿



アケボノソウ



よけの柵を何回か越える。かわいい花を見つけては、わぁっと歓声が上がる。湿原から五段の滝へ寄り、また湿原に入り、花や不思議なキノコ？を見つけた。湿原の草木はほんのり秋色になっていて、長い夏の終わりを感じた。湿原から離れ、巨大な岩の象の鼻へ到着。展望台があり、雲が多いが、男体山の肩が見え、袈裟丸山と赤城山の長い稜線が薄っすら見えた。牧場を見ながら作業道を下る。牧場には数頭の牛と鹿の群れが時間を忘れたように過ごしている。前日光ハイランドロッジに帰着。ほぼ貸切で楽しめた。(文/清水茂美、写真/太田雄三、

本村貴子、菊川倫子)

湿原は秋の気配、井戸湿原の木道で

## 〈7月定例山行〉

### 霧ヶ峰 ー高原を彩る花々を楽しむー

【日時】 2024年7月6日(土) 【天候】 曇のち雨

【参加者】 13名/ 富永、SL清水(茂)、齋藤(理)、井上、大和、加藤(智)、河村、榊原、鈴木(孝)、柘津、松尾、真鍋、山下(和)

【行程】 上諏訪駅= 10:40 八島湿原バス停→ 11:05 奥霧小屋→ 11:55 ~ 12:20 物見石→ 蝶々深山→ 13:15 車山乗越 → 13:40 車山 → 14:20 車山肩バス停付近

#### 【記録】

天気予報が二転三転したが、当日はどうか曇り空。上諏訪駅からバス2台で八島ヶ原湿原に向かった。八島ビジターセンター近くで身支度をし、鹿よけのカーテンを抜けて八島ヶ原湿原の周りを歩き始める。標高1646mにある湿原は涼しい。ハクサンフウロ、トラノオ、ウツボグサ、ニッコウキスゲ等の花々が私たちを出迎えてくれた。思い思い写真に収め進んだ。奥霧小屋から緩やかな登りが始まり、振り向くと八島ヶ原湿原を見下ろすことができた。物見石まで登ると、気象レーダーのある車山山頂に向かう草原の道。蓼科山、八ヶ岳が見えた。草原から吹く湿気のない風にあたりながら昼食をとった。蝶々深山に続く草原の中を歩き、咲き終わった



物見石に登る

レンゲツツジの群落を過ぎると車山乗越に到着。あと少しで車山山頂と勇んで登りだした時に、予報より早くポツポツと雨が降り出した。気象レーダーの建物のそばで風をよけながらレインウエアを着て、雨の中

で集合写真を素早く撮り、下山を始めた。雨と風が吹く中を黙々と歩いていると、車山肩近くで見頃を迎えたニッコウキスゲが咲き誇っていた。車山肩バス停近くで解散とし、予定していたバスに乗車する頃には雨は止み霧となっていた。(文・写真/ 富永真由美、写真/ 山下和保)



雨が降り出した車山山頂にて



ニッコウキスゲが満開

## mini レポート

### 伊藤新道 ～地球の鼓動を感じたアドベンチャー登山～

【日時】 2024年  
9月30日  
～10月2日

【参加者】  
稲富正彦他1名

【行程】  
1日目/湯俣温泉まで  
2日目/伊藤新道遡行  
して三俣山荘まで、  
3日目/新穂高温泉へ



温泉沈殿物からできた「噴湯丘」



ガンダム岩上流で腰までの渡渉



展望台から槍ヶ岳と赤岳を望む

40年ぶりに復活した伊藤新道へ。天候に恵まれ、湯俣川の水量も少なく、絶好のコンディション。渡渉は15回以上あったが、ほとんどが水深は膝位。ガンダム岩の登下降の際、落石の危険があり緊張した。湯俣川右岸に聳える硫黄岳の火山活動で、月2回は発生している噴気爆発による急な増水がある。壮大な景観の中を行く素晴らしいルートだった。(文/ 稲富)

## 〈7月定例山行〉

## 苗場山 —まさしく天空の楽園だった—

【日時】 2024年7月20日(土)～21日(日) 【天候】 1日目/曇り時々雨のち晴れ、2日目/晴れ時々曇り  
 【参加者】 9名/中原、SL古谷(和)、今中、内田(光)、井上(典)、倉崎、清水(節)、村上(真)、山下(和)  
 【行程】 1日目 8:25 越後湯沢駅＝9:20 和田小屋→11:45～12:10 中ノ芝→12:55 神楽ヶ峰→15:00 苗場山→  
 山頂ヒュッテ(泊)  
 2日目 5:55 山頂ヒュッテ→8:55 フクベの平→11:50～12:10 赤湯温泉山口館→14:00 小日橋(タクシー)  
 ＝15:35 越後湯沢駅

## 【記録】

降雨確率が60%を超えている。しかし山は行ってみないとわからない。そう思いながら参加者に「雨覚悟で決行します」と連絡した。

越後湯沢駅で集合しタクシーで和田小屋へ。スキー場から登山道へ入り狭い樹林帯の中、高度を上げていく。石や木の根が多く歩きにくい。7合目半で視界が開けた。期待していなかっただけに嬉しい。中ノ芝ベンチで昼食をとっているうちに雨が降り出した。が、まもなくやんだ。レインを着たり脱いだり忙しい。8合目神楽ヶ峰を越えると一気に下る。途中の水場、雷清水で喉を潤す。とても美味しい水だった。お花畑の先、雲尾坂から急登となる。ユックリ登り、山頂の木道に到着。ガスっているが夢の世界の始まり。どこまでも続くかのような木道、点在する池塘、ワタスゲが揺れている。まさしく天空の楽園だ。それぞれにシャッターを切り、ここに身をおけたことを楽しむ。山頂で記念撮影。休憩後、苗場神社までの散歩を楽しんだ。青空も見え気持ちよかった。

夕食後、展望台へ行った。雲が厚く見事な夕陽というわけではなかったが、妙高・火打がクッキリ姿を現し、空が綺麗に染まっていた。月明かりに揺れるワタスゲも趣きがあった。

翌日、日の出を見てから出発。赤湯経由の長い下り。鎖やロープでの下降や滑りやすい道のトラバースには神経を使った。サゴイ沢を渡り沢沿いに進み赤湯温泉山口館に到着。沢水で冷やした飲料を買い、一気に飲み干す。沢水も美味しい。タクシーの待っている小日橋まで最後の力を振り絞って山行を終えた。

途中、足に力が入らなくなった参加者の荷物を分けて担いでくれ、疲労した仲間の足元に気を使ってくれた男性陣。頼もしくありがたかった。全員に先頭歩きをしてもらった。先頭歩きの難しさや全体を気かけながら歩く必要性を感じたようだった。(文/中原三佐代、写真/内田光太郎、古谷和幸、山下和保)

池塘に青空が映る



広大な高層湿原



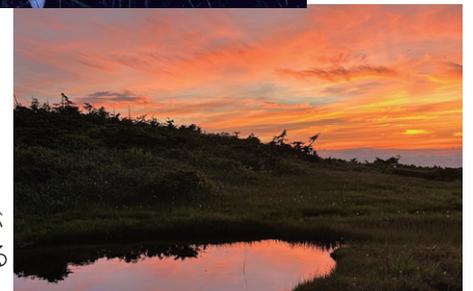
まさに天空の楽園



月明りに揺れるワタスゲ



朝焼けが池塘を染める



## 〈9月定例山行〉

### 越後駒ヶ岳 — 魚沼のシンボルに挑戦 —

【日時】2024年9月7日(土)～8日(日) 【天候】1日目晴れ 2日目曇り一時雨時々晴れ

【参加者】8名 川中原、SL西山、山本(曜)、市村、加瀬、小林(美)、中山、前田

【行程】1日目 13:30 浦佐駅集合＝伝之助小屋

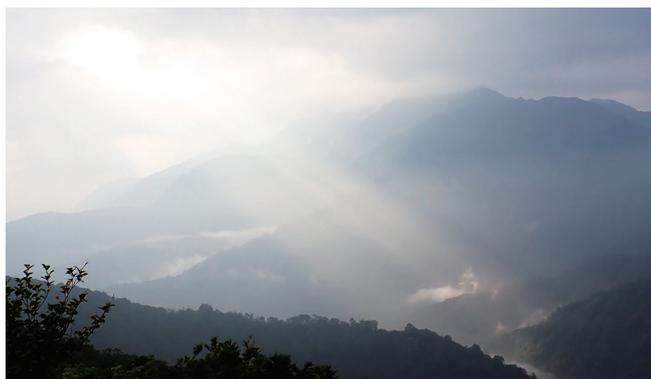
2日目 4:00 伝之助小屋＝4:20 枝折峠→5:15 明神峠→9:45 駒ノ小屋→10:05～40 山頂→  
10:40 小倉山→15:10 枝折峠＝白銀の湯＝17:30 浦佐駅解散

#### 【記録】

出発ギリギリまで天気予報とにらめっこ。前線が停滞し60%の降水確率を示すサイトもある。迷いに迷って実施を決めた。7日は小屋までの移動のみ。しかしアクシデントが。武蔵野線が遅延、埼京線が止まっている。なんと新幹線も動いてない。無事に着けるのか？皆はどうしているだろう？メールでやり取りをし、動き出した新幹線に乗り込んだ。浦佐駅で皆の顔を見た時、この山行が無事に終わったかのように安堵した。

8日は真っ暗な中、宿を出発。枝折峠まで送ってもらう。滝鑑賞の人が多く駐車場は満車だった。ヘッドンをつけて登山開始。滝ビューポイントを通り、明神峠到着と同時に夜が明けた。パラパラと雨が落ちてきてレインカバー装着する。

明神尾根をたどり途中開けた所で、滝雲もどきが見られた。小ピークをいくつか越えて時々落ちていた雨もあがり、道行山分岐に到着。ここを過ぎると山頂が見えてくるようだが本日は見えず。わずかなアップダウンを繰り返しながら小倉山分岐へ進む。曇り空から時折陽がさしてきた。標高1300m手前の開けた場所で足が止まる。周りの山々が姿を現してきた。荒沢岳や中ノ岳を同定しグルーっと目を向けると、幸福が訪れるという天使の梯子がかかっていた。神々しい。幸せな気分。想い思い写真を撮る。



見ると幸せが訪れるという「天使の梯子」



越後駒ヶ岳山頂にて猿田彦に迎えられる



前駒から雪溪を見る



下りは慎重に

小倉山分岐から一旦下って登り返し百草の池を過ぎると傾斜が増してくる。前駒を越え急傾斜の岩陵帯をペンキ印に従って登ると駒の小屋に到着。管理人さんとの会話をしばし楽しみ山頂を目指す。あとひと頑張り。主稜線をたどり中ノ岳分岐を右手へひと登りすると猿田彦大神が迎えてくれる山頂到着。皆とハイタッチで喜びを共有した。かなり早いペースで歩いてこられたので、ゆっくり過ごした。残念ながらガスで展望は僅かだったが、青空が出た瞬間は歓声があがった。復路は希望者のみ小倉山山頂を踏んだ。10分弱だったが、土砂降りにあいレインを着用した。「全ての天気を経験できましたね」と何でも楽しめる仲間たちだった。

(文・写真/中原三佐代、写真/山本曜子、市村邦之)

## 〈11期登山教室〉

## 八子ヶ峰 ー八ヶ岳の好展望地で山座同定ー

【日 時】2024年7月20日(土) 【天 候】曇り一時小雨のち晴れ

【参加者】30名(受講生18名、スタッフ12名) / 山行L内藤

〔A班〕班L皆川、班SL吉田、木谷、高原、田所、ポシエール、水内、三田、SP高岡、SP中島

〔B班〕班L中村(敦)、班SL浅野、足立、小野、齊藤、藤井、毛利、谷貝、SP岩本

〔C班〕班L村岡、班SL辻、内田、小原、曾木、田邊、寺倉、藤原、総括L宮崎(紘)、SP中山

【行 程】7:10立川=(貸切バス)=10:25~55 プール平→11:10親湯→13:00~30 1811m 地点→

14:05~35 八子ヶ峰東峰→15:10 八子ヶ峰西峰→16:15~35 八子ヶ峰公園(貸切バス)=20:10立川

## 【記 録】

初めての奥多摩外の山行。班替えも行い、新鮮な気持ちで立川を出発した。渋滞による遅れに加えて霧雨も降り出したが、出発時に教室目標“地図読み”の現在地確認をしっかりと行った。親湯から標高差500mの登り。地図読みしながら、2時間で1811m地点まで登った。昼食をとって、少し進むと樹林帯を抜けて草原の稜線歩きになった。前方にはヒュッテ・アルビレオの赤い三角屋根。天気は回復傾向。周りを取り囲む山々が見えてくると、奥多摩とは異なる風景に歓声が上がった。休業中のアルビレオを通過して八子ヶ峰東峰に到着。広々とした野原で宮崎講師による山座同定の講習。「良く地図を見て山塊ごとの山の名前と配置を頭に入れること」「見えた山の形や大きさを覚えることが大切」との話に納得。

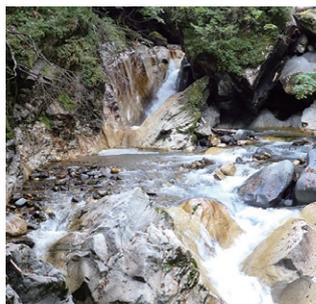
山頂部は雲に隠れているが、東面を北から蓼科山、北八ヶ岳、南八ヶ岳、南アルプスの峰々が並び、西面には霧ヶ峰。圧巻のパノラマだ。集合写真を撮って西峰へと向かう。西峰では質素な山頂標識を確認。さらに西へと稜線をたどる。右手に女神湖、彼方には浅間山も見える。前方に白樺湖が見えてくればゴールは近い。正面に霧ヶ峰を眺めながらスキーゲレンデを下って八子ヶ峰公園に到着。計画より40分遅れたが、天気が回復して講習の時間を十分に取れて、充実した登山教室になった。

(文/内藤誠之郎、写真/辻正人)



## mini レポート

## 湯俣温泉からの槍ヶ岳北鎌尾根



天上沢の荒々しい溪相



槍の穂先を目前にたじろぐ



槍ヶ岳に登頂!

12日、湯俣から水俣川を遡行。千天出合までは癒しの沢、天上沢は溪相一変し荒々しい様相に。北鎌沢出合にてビバーク。13日は北鎌沢右俣の詰めめでコースアウトし、踏み跡復帰に苦労する。独標基部にてビバーク。夕方より雷雨。14日は槍の穂先を登攀。登頂後、槍ヶ岳山荘の幕営地が満員のため双六小屋へカモシカ山行。霧と雨の中、23時に幕営地着。15日、天候好転の気配なく、高瀬ダム下山を断念し新穂高温泉へ下山。(山根)

【日程】2024年9月12日~15日 【参加者】L山根伸洋、佐々木朗子

## 〈11 期初級登山教室〉

# 大菩薩嶺 ーやる気をみせかけた雲の下、百名山を踏むー

【日 時】 2024年8月17日(土) 【天 候】 晴れ時々曇り、一時雨

【参加者】 29名(受講生16名、スタッフ13名)

〔A班〕班L中村(敦)、班SL吉田、川榮、木谷、高原、田所、ボシエール、三田、総括L宮崎、SP片野

〔B班〕班L菊地、班SL中原、足立、小野、齊藤、谷貝、渡辺、SP小澤(知)、SP高田

〔C班〕班L皆川、班SL浅野、小原、曾木、田邊、寺倉、藤原、講師野口、山行L西山、SP宮崎(順)

【行 程】 8:10 甲斐大和駅=9:05~40 上日川峠→10:10 福ちゃん荘→11:50 雷岩→12:00 大菩薩嶺→

12:15~40 雷岩→13:25~55 大菩薩峠→15:00 福ちゃん荘→15:25~45 上日川峠=16:25 甲斐大和駅

### 【記 録】

台風7号は夜半雨を降らせながら去り、臨時バス乗車を期して集まった甲斐大和駅は青空。臨時便は我々を乗せずに行ってしまう定刻便に乗る。だが林道に倒木があり、撤去のために停滞していた前便と共に上日川峠へ9時過ぎ到着。

涼やかな空気、広葉樹の緑がまばゆい。連日の猛暑を危惧して熱中症への注意喚起、準備をしている間に青空は半分以上隠れてしまう。福ちゃん荘までは緩い樹林帯のウォーミングアップ。

唐松尾根は徐々に斜度が上がり、受講生も言葉数少なくなり、汗をかかされる。稜線までの上りが320m。上にいくほど日差しを遮るものがなくなり、急傾斜にフーフーと息が上がる。一段上がり振り返ると、ガスが流れて大菩薩湖が見え隠れした。

11:40、雷岩が出迎える稜線にのり、しばし休憩。野口講師が荷物番となり、受講生はザックをデポして空身で大菩薩嶺へ。嶺は樹林帯の中で展望はない。山頂で写真撮影後、雷岩まで戻って昼食。そばで鹿が草を食べていて、人を恐れる様子がなかった。展望は雲間に少々だが、受講生は満足げだ。



大菩薩峠にて



前方に大菩薩湖を望みながら稜線を進む

12:40、出発。受講生の出発も速やかで滞りがない。牧歌的な緑の山肌にのびている登山道の足元は岩場。確実にゆっくりこなしている。雨雲が背後に迫る気配、賽の河原は旧大菩薩峠だが偲ぶ間もなく通過する。親不知の頭付近で受講生に足つり症状ができるが、すぐに回復して隊列に戻る。

介山荘が見えてきたら一気に下り、大菩薩峠着。大きな標柱「大菩薩峠」を取り囲む。30分の休憩を、山座同定などめいめいに過ごし下山路へ。途中小雨が降り出し雨具着用。山道終点で休憩、都立武蔵高校のヒュッテにと誘われ、見学に行った。その後、雨もやみ往路と同じ登山道の新しいぬかみを慎重に歩み、上日川峠へ15:25 帰着。暑さに苦しめられることもなく、遠くに微かな雷鳴も聞いたが、無事に周回してきたと安堵した。

(文/西山さより、写真/野口いつみ、皆川直美)



唐松尾根を登る



雷岩で鹿が草を食べていた

## 〈11 期初級登山教室〉

## 上高地・岳沢 ―初めての雨天歩行に学ぶ―

- 【日 時】 2024年9月14日(土)～15日(日) 【天 候】 1日目/晴れのち小雨、2日目/曇りのち雨
- 【参加者】 28名(受講生19名、スタッフ9名)
- 〔A班〕 山行L村岡、班SL宮崎(順)、川榮、木谷、高原、田所、ボシエール、水内、三田、SP宮田
- 〔B班〕 班L皆川、班SL片野、足立、小野、齊藤、藤井、毛利、谷貝、渡辺、総括L宮崎(紘)
- 〔C班〕 班L中村(敦)、班SL辻、内田、小原、曾木、田邊、寺倉、SP川合
- 【行 程】 1日目 /6:45 立川北口公園集合、7:00 出発(貸切バス) = 11:40～12:15 スーパーつるや = 14:10 上高地BT → 14:30 山研着、15:00 山研発 → ビジターセンター → ウェストン碑 → 16:20 山研着、19:00～20:40 夕食&交歓会、(～21:45 有志二次会)、22:00 消灯
- 2日目 /4:00 起床、5:30 朝食、7:00 山研発 → 7:15 岳沢登山口 → 8:10～20 休憩 → 8:40～45 岳沢 → 9:45～55 休憩 → 10:15～55 岳沢小屋 → 岳沢 → 14:15 山研着(着替え)、15:10 上高地BT 発 = 23:00 立川着

## 【記 録】

◇9/14 ◇台風の影響で天気は下り坂の予報。心配しながら出発した。三連休初日に加え、中央道の工事が重なり、渋滞にはまる。時間が押し、車中で昼食をとり、14時半に山研に到着。散策は明神池ではなくウェストン碑に変更した。河童橋へ向かう途中で吊り尾根が姿を現してくれた。ビジターセンターへ寄り、梓川右岸を歩きウェストンのレリーフまで散策。そこで雨が降り出



到着早々、ウェストン碑の前で

し、足早に山研へ戻った。スタッフ手作りの美味しい夕食をとりながら懇親を深めた。

◇9/15 ◇雨音で目が覚めた。初めての雨天歩行なので、

衣服の着方やパッキング、行動食のとり方など細かく助言した。朝食後、小雨になったのでせめて岳沢までと出発。登山道は階段や木道が増えて歩きやすくなっていた。樹林帯から岳沢に出た時点で天気が急変する様子にはなかったため、岳沢小屋を目指すことにした。1800m地点で左の岳沢側の登山道が崩壊しており、右に迂回路ができていたが、元の登山道を進んでしまった班の受講生が木の根をまたぐ時にバランスを崩すというヒヤリハットがあった。岳沢小屋に到着するとポツポツと雨が降り出した。雨具を着て小屋の軒下で軽食。

下山時は本格的な雨になり、緊張しながら下った。「体を濡らさないように歩く」という宮崎講師の教えだったが、ほとんどの人が中まで濡れていた。山研で着替えをし、バスに乗り込む。帰りのバスで雨具の手入れの重要性を教わった。帰路はさらに渋滞がひどく、立川到着は遅くなってしまった。

穂高連峰の雄大な姿を垣間見れ、雨の中を歩いたことは、受講生には良い経験となったと思う。

(文/村岡庸こ、  
写真/辻正人)



下りは雨具を付けて慎重に

雨に煙る木立に  
一羽のシラサギが



### 〈3 期中級登山教室〉

## 小坂志川中流沢登り —シャワークライムを経験—

【日 時】2024年7月15日(月・祝) 【天 候】曇り

【参加者】11名(スタッフ5名、受講生6名) L中村(正)、講師 野口(い)、近藤、オブザーバー 中原、村岡、  
受講生 小澤(拓)、中島、柘津、浅野、中山、山下(和)

【行程】7:00 武蔵五日市駅 = 笹平バス停 → 7:50 嫁取坂入口手前 → 9:10 入渓点 → 小坂志沢 → 11:50 ウルシガヤ沢

合流点 → 12:30 ~ 14:10 F1 14 → 14:45 ウルシガヤ沢合流点前 → 林道 → 15:40 笹平バス停 = 武蔵五日市駅

【記 録】バス停から沢音を聞きながら、小坂志川を目指し、林道を下る。7:50、嫁取坂入口手前で沢装備を装着。林道わきの踏跡を下って入渓。水量はひざ下まで。どこを歩いたらよいのか、見定めながら上流へ向かう。深みに行く手を妨げられないようにルートチョイスする。実に面白い。時々大きな蜘蛛の巣が顔に架かる。流木を跨ぎ、護岸を“へつる”。川の出合では本流支流の区別、沢用語ゴルジュ、チムニー、へつりなど新たな知識を得られ脳みそも喜んだ。11:50 ウルシガヤ沢を左に分けると水量が少なく、沢はワイルドな様相に。高さ3mほどの滝 F 1



足首まで浸かって沢歩き



滝登りにチャレンジ!

白く見えた。講師が滝上にロープを準備。ロープをハーネスにつなげ、全員が滝の左側を攀じ登る。希望者3名が滝の中をシャワークライム。顔に灌水が降りかかり続く。目が開けられない。手足を置く場所が水で隠れ手探り足探りで引っ掛かりを探す。何とか滝を乗り越えられ、これぞ沢登りの醍醐味。沢登りも極めてみたい。帰路は14:45、ウルシガヤ沢合流点前で林道に上がり笹平バス停へ。16:07のバスで直帰した者、温泉につかった者、それぞれだった。(文/小澤拓、写真/参加者)

## シダクラ沢 —小滝登りを楽しむ—

【日 時】2024年9月8日(日) 【天 候】晴れ時々曇り

【参加者】5名(スタッフ1名、受講生4名) L中村(正)、受講生 浅野、高岡、村岡、山下(和)

【行程】8:35 奥多摩駅 = 8:43 惣岳バス停 → 9:10 入渓点 → シダクラ沢 → 13:00 奥の二俣 → 13:50 大ブナ尾根 → 14:50 奥多摩湖 = 奥多摩駅

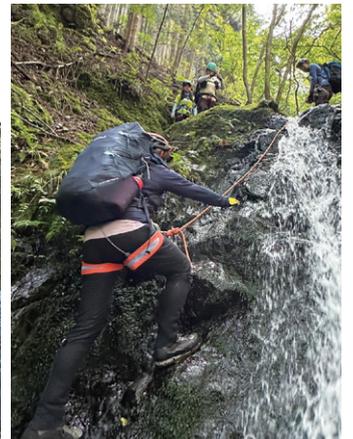
【記 録】初のスピノフ企画。午後から雨の予報で天気は危ぶまれていたが、朝は好天に恵まれた。荒々しい惣岳渓谷の景観を楽しみつつ、長いしだくらの吊り橋を渡って、程なく取水堰上の入渓地点に到着した。沢の装備を整えて入渓。木漏れ日の中、小滝の続く気持ちの良い遡行を楽しむ。途中2条2段の5m滝を、ロープを出して登る。

更に進むと、未広がり水量豊かな立派な滝が現れる。この沢最大の7m滝だ。こどもロープを出して慎重に登る。爽快な体験だった。沢も終盤に近づき、トチノキの大木がある二俣地点で大休止。今日のおさらいと質疑を行う。その後右俣に入り、沢から離れて道なき道の急斜面をひたすらツメ上げる。

皆で励ましあいつつ、音を上げる寸前で大ブナ尾根の1020m付近に合流。そこから急坂下りが続くが、サス沢山からの奥多摩湖の展望に癒されつつ、無事下山した。三河屋の温泉で息を吹き返し、バテレさんで反省会を行った。最後まで天気をもって、望外のコンディションで素晴らしい沢登りになった。

(文・写真/山下和保)

今日も元気一杯の女性陣



ロープで確保されて滝登り

## 〈3期中級登山教室〉

## 鳳凰三山 — 奇跡的な晴れ間の中、気持ちのよい稜線歩き —

- 【日 時】 2024年9月14日(土)～15日(日) 【天 候】 1日目/曇り、2日目/雨のち曇りのち晴れ一時小雨
- 【参加者】 11名/(スタッフ3名、受講生8名) L中村(正)、講師野口(い)、スタッフ石川(さ)  
[A班]5名/山行L中島、小澤(拓)、乙川、佐藤、山本(曜)  
[B班]3名/山行SL 柘津、浅野、高岡
- 【行 程】 [1日目/8:15 葦崎駅(タクシー) = 9:20 夜叉神峠登山口 → 10:35 夜叉神峠 → 12:30 杖立峠 → 14:30 葎平 → 15:10 南御室小屋  
2日目/4:20 南御室小屋 → 6:20 薬師岳 → 7:10 観音岳 → 8:40 赤抜沢ノ頭 → 9:10 地藏ヶ岳 → 10:00 鳳凰小屋 → 11:10 五色ノ滝 → 12:00 白糸ノ滝 → 13:55 南精進ヶ滝 → 16:40 青木鉱泉(タクシー) = 17:50 葦崎駅

【記 録】 ◇9/14 ◇先月の講習山行が雨天中止となったため、二か月ぶりの講習山行。晴れているが暑すぎず山行日和。夜叉神峠登山口から夜叉神峠まで和気あいあいと歩く。夜叉神峠から見えるのは北岳かと地図を広げて山座同定。こうして山を楽しむことも必要と講師から教わる。道中、タマゴダケなどのキノコがたくさん生えていて、秋の山はカラフルだ。予定より早く南御室小屋着。夕食前に外のベンチで談笑。夕食後は二次会をする人、早めに休む人と思いに過ぎず。

◇9/15 ◇早朝、目を覚ますと雨音が聞こえる。寝ぼけている体に朝食を詰め込み、レインウェアを着用。4時半頃ヘッドランプをつけて出発。歩くにつれ、木々の間からのぞく空が明るくなって来る。雨も小降りになってきた。稜線に着く頃には雨が上がり、朝焼けの雲海に美しい富士山が浮かぶ。ここから三山をつなぐ稜線歩き。甲斐駒、白峰三山などの雄大な眺めを堪能しながら歩く。白砂のビーチ(のように見える所)を抜け、オベリスクの麓に到着。オベリスクを行ける所まで行ってみる。A班とB班の間隔があいていたこと、時間が押していたことから、岩場遊びはほどほどにして出発。地藏小屋は建

て替え工事中。青木鉱泉まで下りは、南御室小屋のご主人曰く「アドベンチャーな道」。ザレ場の後は急な



薬師岳山頂にて背景に白峰三山



地藏岳に向かって進む



地藏岳のオベリスクにて

下りの連続で、木の根が張り出して歩きにくい所、手も使うような段差の大きい所が続々と現れる。ロープ場も数か所あり気が抜けない。一か所、登山道が不明瞭な所があり、違うルートを進んでしまい後戻りした。途中、転倒したり疲労が見られるメンバーもいたが大事には至らず、無事に青木鉱泉に到着。講師、スタッフの方にはグループ登山や宿泊山行についてのノウハウを教えていただき、計画から実行まで充実した経験になった。また企画係(L、SL)に頼りっぱなしだったが、次回以降の課題としたい。(文/山本曜子、写真/参加者)



薬師岳の登りに朝焼けとなる

## jRO（ジロー）の規約変更をご存じですか 安全対策委員会 川瀬恵一

東京多摩支部でも多くの会員が「ココヘリ」「jRO（ジロー）」に加入している。発信機を貸与して捜索を行う「ココヘリ」、捜索救助費用を補填する「ジロー」として、それぞれが山岳遭難・救助をサポートする制度を担っていた。その後、ココヘリ運営会社によるジローの子会社化を経て、2023年6月に「ココヘリ」と「ジロー」による新たな山岳遭難救助サービス制度が開始された。

新制度は遭難事故発生の連絡をココヘリ事務局に行うと、事務局が提携民間組織へ手配し、捜索・救助を実施するというもので（上限：550万円）、迅速に捜索が開始されることが期待される。しかし、一方、旧jRO（ジロー）が提供していた捜索救助費用補填という、山岳保険に準じるサービスは終了した。つまり、ジローは保険ではなく、捜索と救助を行うことに特化したサービス提供機関になったといえる。今までカバーされていた自分たちで手配した場合の捜索救助費用や関係者の交通費・宿泊費の補填はされなくなった。詳細はホームページ等で新制度について確認してほしい。

保険を希望する登山者は、別途、山岳保険に加入することが必要だ。残念ながら旧ジローと同程度の低額な保険料で550万円の補填を得られるような山岳保険は見受けられない。例示するとJAC会員向けの日本山岳会団体山岳保険（東京海上日動火災）、JMSCA山岳保険（三井住友海上火災）などがあり、他の山岳保険ともあわせて検討するとよい。



## 『会報・山』と『山岳』の合本・製本完成

奥多摩 BC 運営委員会 富澤克禮

『会報・山』と『山岳』は支部員の濱野弘基氏の仲介で、濱野氏が勤務されていた施設に入所していた酒井田昇氏（6340）から2017年に寄贈された。今回、『会報・山』の第1号から最近の900号までを、3年かけて16巻に合本・製本した。1巻は50冊になっている。ただ、101号～200号は欠号だ。戦争中から戦後にかけての混乱++期で、入手出来なかったと推測される。2024年度に『山岳』の合本・製本に取り掛かり、17冊を完成させた。寄贈された合本・製本済の15冊と合わせて32冊になる。『山岳』は日本山岳会設立の翌年の1906（明治39）年4月に最初に発行されたが、残念ながら、第1年（1906年）～第4年（1909年）までの創設期のものはなく、1番古いもので、第5年第2号1910（明治43）年である。

詳細はHPをご覧ください。

### <奥多摩BCからのお知らせ>

奥多摩BCを事前予約せずに短時間の休憩「ちょこ休憩」ができます。希望者は次の番号に順に電話してください。①→②→③→④→⑤。BC運営担当者が鍵番号を教えます。①090-5822-6860、②090-3142-8341、③090-2226-2821、④090-5797-0503、⑤090-9809-3201。また、

隣接する三河屋旅館の温泉が100円引で利用できるのHPをご覧ください。



# mini レポート

## 表銀座縦走 槍ヶ岳を目指して



↑喜作新道から鷲羽・三俣蓮華岳方面を望む  
東鎌尾根から見た槍ヶ岳→



【日程】7月25日～28日【参加者】L上原、浅野、中尾、山本(曜)、鎌塚【記録】1日目は曇りで中房温泉から燕山荘へ。燕岳に向かうも夕立にあい引き返す。2日目は右に裏銀座、後に燕岳。何度も立ち止まり眺めながら大天井岳から西岳へ。3日目は東鎌尾根に入ると鎖や長い梯子が連続した。槍ヶ岳は気を引き締めて登り、皆で無事に登頂。山頂は少し曇っていたが素晴らしい眺望だった。最終日は雨風の中、上高地に下山。

(文・写真/鎌塚)

## 南アルプス 白峰南嶺南部縦走

【日時】8月10日～12日

【天候】晴れ時々曇り

【参加者】3名/L中原、西山、村岡

【行程】1日目 下部温泉駅=伝付峠入口→二俣出合→伝付峠(泊)/2日目→生木割山→策ヶ岳→布引山→所ノ沢越(泊)/3日目→青蘆山→池ノ平→青蘆山登山口→夏期臨時PA=静岡駅



赤崩の頭で南アルプス稜線を見て歓喜!

伝付峠までは急登の連続

【記録】ルートに山小屋はなく、水場は2カ所のみ。伝付峠までは急登箇所が続く。水3L強の重さと暑さに苦しめられながら伝付峠着。峠の先で幕営。2日目は西側に南アの山並みを眺めながら縦走し策ヶ岳に登頂。3日目は暗いうちに出発し、明るくなるまでルーファイに苦勞。池ノ平からは幅の狭いトラバースの連続で緊張した。最後の1時間40分の林道歩きは暑さとの闘いだった。(文/村岡)

## 白峰三山縦走 間ノ岳をすぎてから素晴らしい稜線歩き

【日程】7月19日～22日 【参加者】L清水(茂)、植草、斎藤、野口(正)

【記録】1日目は広河原から白根御池小屋へ。2日目は北岳登頂したが、1時間待ってもガスが取れなかった。3日目は間ノ岳をすぎると晴れて素晴らしい稜線歩き。農鳥岳を越えて門沢大小屋泊。最終日は奈良田温泉に下山。(文/清水(茂))



ガスの北岳山頂で



北岳で「北」の人文字



北岳から北岳山荘へ向かう下りで間ノ岳、農鳥岳が見えた

## ESSAY

### 『 涸沢の上空にUFO現る! ? 』

夏原 寿一

いえいえ、UFOではありません。これは局地的な上昇気流によって発生した低気圧の渦巻き雲です。1960年7月24日の午後2時ごろ、涸沢でテントを張りながら空を見上げると…！渦巻の上側に写っている3つの雲は、渦に引き込まれるようにゆっくり動いていましたが、暫くすると渦が消えて幾つかの小さな雲が浮かんでいるだけになってしまいました。

低気圧の渦は、北半球では左回りですが、それは低気圧を上から見たときの話。この写真のように下から見ると右回りになっています。当たり前のことですが、なんだか新発見をした気分です。



## 多摩支部の人々 (第9回)

### カナダに半世紀暮らして 小笠原毅

山へ興味を抱いたのは日本山岳会のマナスル登頂（1956年）だった。島根県の私が育った地域は標高1000mにも満たない藪山が連なるばかりで、新聞や映像で見る雪、氷河、岩のマナスルは衝撃的だった。大阪に移って、1960年の中頃から登山を始め、比良山脈から始まり北と中央アルプスを登った。

日本の1960年後半はいろいろな事があり、山登りばかりして良いのかとも思い、1971年に日本脱出。アメリカ、メキシコを放浪した。1973年にカナダの永住権を取得し、以後カナダに住んでいる。

20年程は仕事、結婚、子育てで山登りも出来なかった。仕事は30年間、森林会社で書類作りに携わった。1987年に胃癌に罹り、胃の全摘出を受けた。病室の窓から白い山々を見て、元気になればもう一度山に登りたいと思った。

1990年に少しずつ登山を再開。1994年にカナダ山岳会に入会し、ロッキー、カスケード山脈、B.C. コースト山脈を登ったが、体調的に大きな山には行けなかった。2006年に再生不良性貧血に罹り、大きな山は益々遠のいてしまった。4年の治療で全快し、2011年、67歳の時に思い切ってネパールヒマラヤ登山。自分の身体が6000m以上の高度にどう反応するのか知りたいと思った。その結果、メラピーク(6476m)は登れたが、ブランツエ(7129m)は登れなかった。大した不調もなく、7000mを越える事ができた。2014年に2度目のヒマラヤでヒマルングヒマール(7126m)を目指したが、大雪と雪崩のためにBCにも行けなかった。代わりにチュール最東峰(6059m)に転進して登頂できた。その後、アンナプルナ周遊、ガタランド、ランタン谷のトレッキングと回って、山旅を楽しんだ。2015年～2019年アラスカのユーコンの山にも行った。

日本山岳会に2011年に入会した。60年代に日本最高のクライマーと言われ、カナダのケローナ在住だった加藤幸彦氏と2000年頃知り合い、亡くなる直前に紹介して頂いた。入会は加藤氏からの最後の贈り物と思っている。

2019年春に東京多摩支部の佐藤守氏の至仏、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳に参加し、良い思い出になった。2022年にインドザンスカール遠征隊に参加予定だったが、北島氏の遭難により中止となってしまった。22年に2度目のユーコンの山、23年にカナダ山岳会の仲間と恒例のロッキーでの山スキーを楽しんだ。

私は、山頂の霊気を肌に感じると、生きている証のように感じる。今年で80歳になり、山登りも大変になってきたがこれからも、ビスタリ、ビスタリで山登りやカヤックを楽しみたい。ブリティッシュコロンビア州の西岸のヴァンクーバー島と本土の間にあるクアドラ島に住んでおり、中々日本に帰れず、支部行事に参加ができないが、帰国した時には山行に参加したい。

山は苦しいけれど楽しい、怖いけれど優しい、神秘的だけれど呼びかける。



1967年頃、伯耆大山にて



カナダのBC州の山で



2014年、チュール最東峰登頂

#### 編集部からコメント

最近届いた「山岳」119号に、松原尚之氏がユースクラブのカナダ合宿について執筆し、小笠原さんが200kmの距離をものとせず協力に駆け付けたことを紹介している。小笠原さんは大変お元気で、再度のヒマラヤ登山も胸に抱いている。2年後にはアラスカのユーコン川の川下りを企画しておられるので、支部の皆さん、一緒に行きましょうとのこと。

〈山行委 / 定例山行〉

◆掃部ヶ岳 1449m ( 榛名山系) 11/16( 土) 体力★★ / 技術★  
 晩秋の榛名湖越の絶景榛名富士を眺めたい。集合 /8:20 高崎駅、8:30( 群馬バス)= 榛名湖バス停→掃部ヶ岳登山口→硯岩→掃部ヶ岳→杖の神峠→天神峠→榛名湖バス停=16:55 高崎駅、歩行時間 / 4h30m、申込 / 齊藤、締切 11/4

◆黒岳 1793m( 御坂山系) 12/ 21( 土) 体力★★★ / 技術★★★  
 富士眺望の稜線を歩こう。集合 /7:58 富士急行線河口湖駅 8:08( バス)= 三つ峠入口バス停→登山口→中沢山→展望台→黒岳→破風山→新道峠→中藤山→大石峠→大石峠入口( タクシー)= 河口湖駅、歩行時間 / 7h、申込 / 清水、締切 12/7

◆金時山～丸岳 1212m 1/25 ( 土) 体力★★★★ / 技術★★★  
 冬の金時山はどうだろう。集合 / 7:40 小田原駅東口 箱根登山バス乗り場、小田原駅 = 仙石バス停→金時登山口→矢倉沢峠→金時山→長尾山→乙女峠→丸岳→長尾峠→仙石バス停、歩行時間 / 6h35m、申込 / 西山、締切 1/10

◆丹沢主脈縦走 2/8 ( 土) ～ 9( 日) 体力★★★★ / 技術★★★★  
 冬の丹沢を縦走しよう！集合 / 7:30JR 藤野駅前、1 日目 / JR 藤野駅( タクシー) = 東野釜立林道ゲート→姫次→蛭ヶ岳→蛭ヶ岳山荘( 泊)、2 日目 / 7:30 蛭ヶ岳山荘→丹沢山→塔ノ岳→堀山の家→大倉、※参加条件：軽アイゼンでの雪山歩行の経験があること、※先着 8 名、歩行時間 / ( 1 日目) 5h30m、( 2 日目) 6h、申込 / 内藤、締切 1/11

◆黒斑山 2404m 3/8 ( 土) 体力★★★ / 技術★★★★  
 雪化粧した浅間山を望む。集合 /8:30 佐久平駅 浅間口 タクシー乗り場、佐久平 ( タクシー) = 高峰高原ビジターセンター→車坂峠→車坂山→コマクサ展望台→トーミの頭→黒斑山→トーミの頭( 中コース)→車坂峠→高峰高原、歩行時間 / 4h45m、申込 / 古谷、締切 2/21

連絡先

鬼村 邦治	onimura@jcom.zaq.ne.jp
齋藤 理恵子	rie.bad.guts2804@gmail.com
清水 茂美	bunta.nanako.aitaiyo@gmail.com
富永 真由美	muget.m30@gmail.com
内藤 誠之郎	siro7110@yahoo.co.jp
中原 三佐代	nakahara334ron@gmail.com
西山 さより	okabasaku3911@gmail.com
古谷 和幸	kazuyuki.furuya@gmail.com

〈山行委 / 平日山行〉

◆官ノ倉山 344m( 奥武蔵) 11/14( 木) 体力★ / 技術★  
 信仰の山へ。集合 /8:10 小川町駅( バス)= 和紙の里→登山口→臼入山→天の峰→烏森山→不動沢の頭→官ノ倉山→石尊山→八幡神社→小川町駅、歩行時間 / 3h50m、申込 / 中原、締切 10/25

◆石割山 1412m 12/4( 水) 体力★★★ / 技術★  
 開運の御利益を求めて。集合 /7:30 富士山駅、7:53( バス)= 平野バス停→富士見平→石割神社→石割山→大出山入口バス停→山中湖バス停、歩行時間 / 4h50m、申込 / 富永、締切 11/20

◆子ノ権現( 子ノ山三山)640m 1/16( 木) 体力★★★ / 技術★  
 足の神様、今年もよろしくお願ひします。集合 /8:50 西武線吾野駅、9:00 吾野駅→東郷公園→子の権現→豆口峠→竹寺→小殿バス停 = 飯能駅、歩行時間 / 4h30m、申込 / 西山、締切 1/6

◆石老山 702m 2/19( 水) 体力★ / 技術★  
 奇岩・怪石を眺ながら展望も楽しむ。集合 /8:15J R 中央線相模湖駅前 1 番バス乗り場、8:37 相模湖駅( バス)= 石老山入口バス停→顕鏡寺→八方岩→融合平展望台→石老山→大明神展望台→プレジャーフォレスト前バス停、歩行時間 / 4h15m、申込 / 鬼村、締切 2/5

◆身延山 1153m 3/27( 木) 体力★ / 技術★  
 富士山を仰ぎ見ながら、枝垂桜目指して参道を降りる。集合 /11:25 身延山バス停( 中央道高速バス 11:16 着)、11:30 身延山バス停 = 久遠寺駅( R W)= 奥の院駅→南展望台→三光堂→久遠寺駅田印→身延山バス停、歩行時間 / 4h、申込 / 鬼村、締切 3/1

奥多摩 BC のイベント案内

「奥多摩湖 見晴らしの丘 散策と芋煮会」  
 日時： 2024 年 11 月 9 日 ( 土)  
 集合： 奥多摩駅 9:25  
 芋煮会 12:30 ～ 会費 2000 円

「氏神様初詣と BC 開き」  
 日時： 2025 年 1 月 13 日 ( 月祝)  
 集合： 奥多摩 BC 9:30  
 BC 開き 12:30 ～ 会費 1500 円

申込 & 問合せ ttmbc @ jac.tokyo

# 会務報告

## 支部連絡会議が開催される

9月19日に表記会議が開催された。主な議題は、本部広報委員会の設置、東京新支部の進行状況、デジタル化の推進、郵便料金値上げによる財務の悪化、2025年の創立120周年記念祝賀会と晩餐会、日本山岳会山岳保険への加入の勧め（JROの問題）などだった。中でも、入会金を値下げしたことで新入会員の獲得が期待されるが、支部として新入会者の獲得目標を示すようにとの指示があり、多摩支部は20名と回答した。支部の意見は、「山岳」は購入希望会員に頒価で販売（埼玉）、「山」の隔月発行への変更（関西）、晩餐会や記念式典は会場のレベルを下げて多くの人が参加されるイベントにする（北九州）など、財政問題についてが多かった。

## 幹事会議事録（重複は省略。支部HPの議事録を参照）

出席：【167回、168回】野口（い）、近藤、辻、太田、村岡、河野、川瀬、中村（敦）、石井、清水（茂）、西山、富永、（監事）竹中、小尾

欠席：【168回】富永

会場：立川市女性総合センターアイム 第2学習室

### ■第167回幹事会■

日時：2024年7月16日（火）18:30～20:20

【野口支部長挨拶】AC総会で入会金が正会員10,000円、準会員5,000円に減額と、準会員期間3年を1年へ短縮案が承認。

【報告事項】

（近藤/事務局）JAC総会で事業報告・決算・入会金の減額・監事の選任が承認され、オンラインで入会申込み可になった。

（太田/財務）6月に本部退会届提出した2名は支部会費免除とする。精算は幹事会で太田幹事が各委員から紙書面を受領し、緊急の場合は真鍋氏へメールで提出。榊原さえ子氏が委員就任。

（辻/総務）入退会管理は重要課題とし協議。規程は本部の準会員規程の変更に伴う変更と奥多摩BC規程の変更がある。会報55号の10月幹事会議事録の「規約等積立金の規約は、総務で決める」は「財務または安全対策の所管」と修正する。

（村岡/会報広報）会報たまのPDF版配信を推進する。

（近藤/ICT）HP記事新規作成時に入れるカテゴリーのチェック欄に不要なチェックを入れないようマニュアル作成する。HPへ会員からの投稿は、内容のチェックに要検討。各委員会イベントの申込みのフォーム化はもう少し待ってほしい。

（西山/山行）報告：定例/6月「伊豆ヶ岳」（57号）、7月「霧ヶ峰」（p.6）。平日/6月「生藤山」（57号）。7月「太平山」（p.5）松尾泰臣氏、勝又順子、佐々木朗子、西村章、松本賀津子氏が委員就任。

（河野/自然保護）6/16-17「三ツ峠アツモリソウ保護活動」（p.6）本部自然保護委員会、山梨支部との合同作業、観察と除草作業。

（川瀬/安全対策）登山教室PTからヒヤリハット報告書「御前山」の提出。8/11「山の日と安全登山周知チラシ配布」予定。

（中村/BC運営）「ちょこ休憩利用」制度の奥多摩BC管理規程の改定は幹事会で承認済み。8/10「生ビールを飲んで花火を観る会」、8/11「山の日」チラシ配り予定。BCオープン 7/28。

（近藤/登山PT）11期教室：6/5講座「山の天気」、6/20「大岳山」、スタッフ研修：6/16「松生山」、自主トレ（p.4）。

（河野/野火止PT）定例作業、臨時作業、捕獲カシナガのカウントなど。7/5、14、カシナガトラップの維持管理作業など。

（石井/山岳古道PT）山岳古道（3コース）は踏査終了。報告書作成中。「鎌倉街道山の道」の埼玉側の調査で6/19秩父神社宮司等ヒアリング。脇往還ルートの踏査活動はスケジュール調整。

【協議事項】

・中級登山教室について：（河野）中級登山教室はどこが管轄するのか？登山教室PTで管轄するならば、統括リーダー宮崎氏と連携すべき。（近藤）中級登山教室の代表は中村正之氏。事業計画や予算案は出ていない（野口）最高顧問、統括リーダーとは何ですか。PTリーダーなら幹事会出席が必要。（河野）支部の規程の前に登山教室PTができた経緯がある。PTリーダーと考える。（近藤）登山教室PTの中に初級・中級があると考える。宮崎氏と協議する。

・支部会員等に関する規程；JAC本会準会員規定改定に伴い支部規程第6条：準会員・準会員の期間を3年から1年にする。

・支部会費の滞納者について（太田）：「会費滞納が3年目の年度末まで未納者は会員資格喪失とする」になっているが、1年目の年度末までとしたい。（近藤・石井）本部は3年目としているので準拠が望ましい。→現行どおり、3年目の年度末にする。

【監事コメント】（竹中）高遠祭、国際山岳平和祭、アジア山岳連盟30周年、広島支部20周年など山岳祭や記念式典が多い。参加して交流してほしい。（小尾）各委員会が活発で結構なこと。

### ■8月委員会報告集■

【報告事項】

（近藤/事務局）南関東ブロック三支部合同懇親山行あり。

（太田/財務）7月末会費未納者37名に個別対応を行う。

（辻/総務）会員動向は基本台帳と総務の会員報告数が一致を確認。9/20支部規約と規程を送付予定。春の集いと講演会について検討中。

（近藤/ICT）自然保護委員会で退会者がHPに投稿していたので権限を削除。自然保護、野火止PTの新担当者が決定し稼働。

（西山/山行）報告：定例7月「苗場山」（p.5）。山行の諸規定を見直し整理中。鎌塚典子委員退任。

（河野/自然保護）10/30自然保護講演会と11/9-10三ツ峠アツモリソウ保護活動（種まき）紹介。

（川瀬/安全対策）8/11「山の日と安全登山周知チラシ配布」は安全対策・奥多摩BC・本部の事業委員・奥多摩BC宿泊会員で奥多摩駅前広場にて約800部配布。ビジターセンター・奥多摩BC等で約200部配布。大盛況だった。

（中村/BC運営）8/10「生ビールを飲んで花火を観る会」盛況（p.2）。什器備品確認作業終了。BCオープン8/25。

（近藤/登山PT）11期教室：7/20「八子ヶ峰」（p.9）、自主トレ：7/13「滝子山寂俏尾根」（p.4）。懇親山行「大菩薩ヒュッテ」予定。

中級登山教室：Zoom会議3回実施。スピノフ企画：8/4「シダクラ沢」（p.12）。8月「仙丈ヶ岳」予定。今後、初級登山教室とは別途に、中級登山教室は中村講師から報告し、予算関係は併せて近藤幹事が請求することにする。

# 会 務 報 告

(河野 / 野火止 PT) 定例作業 :7/16、7/23。捕獲カシナガのカウントなど。業者による危険木の伐採が始まる。会議で来年はトラップ設置しない、消耗品を協議し要求する、暑さを考慮し作業するなど。

(石井 / 山岳古道 PT) 山岳古道の報告書原稿作成状況の確認。「鎌倉街道山の道」踏査終了後の報告書協議。脇往還ルートの踏査は9月に延期。資料が準備されているので、机上調査の実施中。

## ■第168回幹事会■

日時：2024年9月17日(火) 18:30～20:20

〔野口支部長挨拶〕故北島氏のGPS2台がご家族より届き、安全対策委員会で保管する。神尾重則ドクター(支部会員)の遺稿集出版記念会に参加。

〔報告事項〕

(近藤 / 事務局) 2025/4/1に東京支部設立の準備が進んでいる。JAC入会はHPからフォームで申込み可、会員へのグーグルアカウントを徐々に配布中。三支部合同懇親山行の申込み少なく、来年は運営側、増員したい。

(太田 / 財務) 会費未納者へ8月以降メールで督促し、9/10で未納19名、引き続き納入依頼予定。振込口座払込豹の作成費3000円申請→了解。

(辻 / 総務) 会員の入退会管理は、本部、財務(会費)の分担を明確にする。本部が入会手続きを電子化したので、支部もHPから申込みできるようにしたい。支部規約・規程を会員へ送付。名簿2024年度は作成しない。(石井)名簿は山岳会活動上、必要と考える。(近藤)個人情報開示を望まない会員もいる。

(辻) 2025年度以降の名簿作成は次幹事会で協議事項とする。講演会の演者は小松由佳氏(日本人女性で初めてK2に登頂、写真家)、3/20(木・祝)、武蔵野スイングホール、懇親会はミアボッカ(イタリアン・レストラン)。(石井)支部15周年記念事業とは別か?(辻)15周年記念事業とする。(石井)記念事業PTを作ったらどうか。(野口)予算・時間不足、10周年と同レベルでやることはない。

(村岡 / 会報広報) PDF版の会報たまへの移行が25名。

(近藤 / ICT) 総務より会員異動簡素化について要請があり、連

携し作業中。「多摩百山」の改修PTを作って、作業したい。

(西山 / 山行) 報告:定例:8月「西沢渓谷」台風10号のため中止。9/7-8「越後駒ヶ岳」(p.8)、平日:9/4「横根山」(p.5)。

山行リーダー講習会予定は9/7日和田山、9/14石裂山、9/21「水雲山」予定。

(河野 / 自然保護) 10/30自然保護講演会、会場:オープンイノベーションフィールド多摩・国分寺館、演題:登山道の維持管理と自然環境の保全対策～私たちにできることは何か～、講師:登山道法研究会副代表の森氏、新聞社9社掲載依頼と会報「山」掲載、本部・支部のHPに9月アップ予定。11/9-10三ッ峠アツモリソウ保護活動(種まき)。11/6自然教育園散策。

(石井代理 / 安全対策) 登山技術講習会を10/27に予定したが「大菩薩」懇親山行と重なるので日程を調整する。11/2都岳連救助隊「秋の安全登山キャンペーン」を川苔山細倉橋で予定。

(中村 / BC運営) 10/5-6「ハイキング&座禅会(慈眼寺)」と11/9「芋煮会とハイキング」、1/13「氏神様初詣と奥多摩BC開き」紹介。冷蔵庫の購入希望、BCオープン 9/7、29、10/27。

(近藤 / 登山PT) 11期教室:8/17「大菩薩嶺」(p.10)、9/14-15「上高地岳沢・山研宿泊研修」(p.11)。自主トレ山行:9/28-29「雲取山」、懇親山行:10/26-27、「大菩薩ヒュッテ」予定。

(河野 / 野火止 PT) 8/27定例作業、下草刈り、ツルきり作業など、会議、9/8作業、業者が危険木の伐採作業中。スズメバチ巣は撤去済み。スズメバチスは撤去済。

(石井 / 山岳古道 PT) 脇往還ルートの踏査は9/19第1回 / 上成木→名坂峠→大丹波→川井駅予定。(近藤)古道HPを一般公開したが多摩支部は掲載無し。

〔協議事項〕

・中級登山教室:9/14-15「鳳凰三山」(p.13)。

・同好会「多摩マウンテンジャム」(代表/近藤雅幸)設立申請あり、(石井)沢登り、ヤブ山の安全管理についてはどうなのか。(近藤)十分配慮していく。→承認。

〔監事コメント〕

(竹中) 次年度に向けての課題や行事を検討してほしい。(小尾) 東京支部の設立が現実味を帯びてきた。多摩支部との棲み分け、会員数の減少に伴う会費収入の減少を注視したい。

## 2024年7月～9月

会員数 (総務委員会) (人数)

	総会員	通常会員	準会員	支部友
7月末	297	245	48	4
8月末	298	245	49	4
9月末	298	245	49	4

会費入金状況 (財務委員会) (人数)

	入金者数	未納者数	備考
7月	260	37	297
8月	276	22	298
9月	281	18	299

登山計画受理・検討件数 (安全対策委員会) (件数)

月	支部	同好会	個人	合計
7月	4	0	17	21
8月	5	0	7	12
9月	6	0	12	18
合計	15	0	36	51

会員移動 (総務委員会)

7月末日	入会	通常会員	1名	小部正治(17222)
		支部友	1名	坂本文艶(A0456)
8月末日	入会	準会員	1名	林理恵子(A0628)
9月末日	入会	通常会員	1名	内村泰久(7722)
	退会	通常会員	1名	中村美奈子(15549)

BC利用状況 (BC運営委員会) (人数)

	宿 泊			日帰り・一時利用(休憩)		
	会員	会員外	合計	会員	会員外	合計
7月	2	0	2	0	0	0
8月	12	0	12	27	0	27
9月	0	0	0	0	0	0
R6年度合計	20	0	20	59	5	64

## カレンダー (2024年11月~2025年2月)

日程	山行	イベント(講座・講演)
11/9(土)~10(日)		三ツ峠アツモリソウ保護活動(種まき)
11/14(木)	平日山行「官ノ倉山」	
11/16(土)	定例山行「掃部ヶ岳(かもんがたけ)」(榛名山系)	
11/16(土)	11期登山教室「六ツ石山」	
11/23(土・祝)	3期中級登山教室「上州武尊岳」	
11/26(火)		セルフレスキュー講座「冬山の医療」
12/4(水)	平日山行「石割山」	
12/8(日)		3期中級登山教室座学「雪山知識」@zoom
12/14(土)		11期登山教室講座「冬の山歩き」@国分寺
12/21(土)	11期登山教室「高川山」	
12/21(土)	定例山行「黒岳(御坂山系)」	
1/12(日)~13(月・祝)	3期中級登山教室「谷川岳周辺雪上訓練」	
1/13(月・祝)		奥多摩BC「氏神様初詣とBC開き」
1/16(木)	平日山行「子ノ権現」	
1/18(土)	11期登山教室「石割山」	
1/25(土)	定例山行「金時山~丸岳」	
2/8(土)~9(日)	3期中級登山教室「黒斑山」	
2/8(土)~9(日)	定例山行「丹沢主脈縦走」	
2/15(土)	11期登山教室「入笠山」	
2/16(日)		登山技術講習会「ロープワーク」
2/19(水)	平日山行「石老山」	

## 会報広報委員会 お知らせ

次号59号は2025年2月発行予定で、原稿締切は12月末です。原稿は本号を参考に書式を合わせてください。写真はできれば500KB以上のサイズでキャプションを付けてください。委員会・山行報告、ミニレポ、エッセイ等お寄せください。



### 速報 15周年記念講演会と懇親会のお知らせ

3月20日(木・祝)に講演会と懇親会を行います。演者の小松由佳氏は日本人女性として初めてK2に登頂した登山家で、現在はシリア難民の男性と結婚し、東京で子育てをしながら写真家として活躍しています。会場は武蔵境駅前スイングホール。懇親会は近くのイタリアンレストラン(ミア・ボッカ)で。奮ってご参加下さい。



### 編集後記

東京新支部が来年4月に発足する見込みとなりました。JACの発展としては嬉しいことですが、当初は移動される方がいることも考えられます。そこで多摩支部がより一層楽しい、魅力的な支部になるよう、皆さん、力を合わせて頑張りましょう!(野口)

山岳雑誌 **岳人** 毎月15日発売

モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

▶ 岳人の年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

さらに モンベルクラブ会員さまには モンベルポイント **5,000P** プレゼント!

価格:1,100円(税込)

<https://www.gakujin.jp/> ウェブ、モンベルストア、書店等にて好評発売中!

「会報たま」58号  
発行所 公益社団法人日本山岳会  
東京多摩支部  
〒188-0011 西東京市田無町4-11-11  
Email: izumi\_noguchi@yahoo.co.  
会報広報委員会村岡庸こ、野口いづみ  
石川さとみ、吉川三鈴、嶋田恵美子、  
白川まり、祢津尚美  
協力/グリーンカ工房

**COCO HELI**

電波を使った検索で  
早期発見

**ココヘリ**

8分でわかるココヘリ↓

03-3400-943

登山用品の専門店 ☎0422-38-9234

**山幸**  
やまこう

靴の無料診断  
痛い! 当たる!  
直します!  
電話でご予約を

オリジナル軽登山靴  
秘伝 ¥19,250~

武蔵境駅北口 駅前ビル2階

営業時間(水曜定休)  
11:00AM~19:00PM